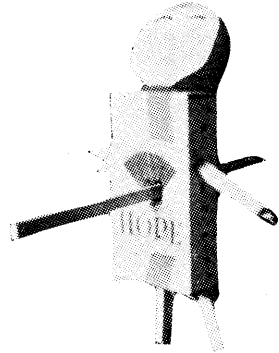
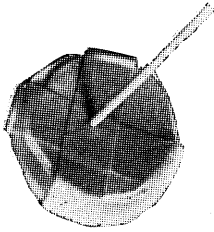


ボール紙のコマをまわす

小さい指先



清水エミ子

しゃぼん王あそびとじしゃくあそびとの経験（六二巻二・五号）で、私は、くり返しによるあそびの発展と子どもたちのたくましい生活力と力つよいエネルギーを感じさせられた。そして、くりかえしあそべる活動の効果（失敗を成功させようとするがんばりの態度）をはっきりと知らされたのである。

どんなに注意力のたりない子どもでも、室のすみまにぶらさげてあるじしゃくに近づくと、かならずといってよいほど、じしゃくに釘または鉄の棒がついているかを確かめ、そして、さびをきにしてみがいたりしているのである。このすがたは充分にあそんだあとの近親感とその時の経験が、またあそぼう、そのためには磁力がなくなつてはあそべなくなる、という注意力を育ててくれたのではないかと思う。

しかし、ここまでで安心してはいけな、これから先の子どもたちの可能性を確かめなくてはと考え、今までは誰もが抵抗なくくり返せる教材であったのであるが、次の段階として、いくらか抵抗のある教材を考えて頑張りの態度に抵抗力をつけなくてはと意気込んだ。いざとなるとせっかくの今までの結果をこの小さい抵抗でこわしてしまつてはと、何回もしりごみし、弱気にもなつた。しかし、子どもたちの力つよいエネルギーを信じ、子どもたちに投げかけてみることにしたのである。

今までいっしょにシャボン玉、じしゃくあそびをこころみてきた他の幼稚園の友だちと、

①どの位の抵抗ならくり返しが可能だろうか。

②ひとりの落こ者もださずに子どもたちが楽しんで活動できる教材はどんなものが適当だろうかを考え合い・失敗の程度が予測でき・その失敗が何らかの方法ですくいあげられ、劣等感にならず、がんばりの態度が身につけられるもの・そして活動の発展が期待できる教材をと考えてみた。

いろいろの意見がでたが、自分の力で作り、あそべるもの、そして三学期であるということと、「先生、ぼくの指はとってもいい指だよ」（そうよかったね）というところ、「そう、ぼくがよくまわらせて」というとプラスチックのコマよくまわるんだもの」など、子どもたちの声もこの期にあったので、コマあそびを取りあげてみることにしてみた。

このあそびは今まで、男はコマ、女ははねつき、と区別して扱われがちであったあそびのようである。そのため、男児のみわすコマをじっとみながら、「あたしもやらして」とそっと頼んでいる女の子、みんなが園庭にいる時、ひとりそっと室に入りだれもないところでそっとコマをまわしている女児をみかけることが時々ある。こんな小さい時から男のあそび、女のあそびと区別なくどんなことでも経験しあえるようにするためにと、みんなはり切ってとりあげてみた。

△方法Ⅴ

◎自由あそびの時ではなく、いっせいに全員で活動する。

●材料

うすでの白ボール紙（画用紙半分）大を一枚ずつと、割ばし、ひご竹、マッチ棒、穴あけ用釘をこちらで用意して、子どもたちに示し、その他は何でも、どのように使ってもよいという自由さを与えて、その活動を観察した。（セロテープ、ビニールテープ、今まで使ったことのある廃品、クレヨン、えの具、マジックなどはふだんのままにしてあたえた。）

そして、その活動を他の園や学級と比較してみた。

文京区

◎製作 五才 一年保育

・最初は牛乳のふた程度のものにマッチ棒を使ったものが多かった。型は丸が大半。

・模様は次頁(④)の通りでこれを色別にぬる。

・ホッチキスで二枚重ねる。(④)

・わりばしの芯をセロテープでとめる。(④)

・三枚を糊ではりつける。

・四角のこまをつくる。(④)

・四角いコマにわごむをかける。(④)

・「ほしごま」四角いコマに三角の羽を四枚糊ではりつける。(④)

◎あそび方

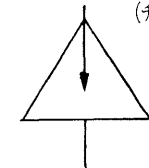
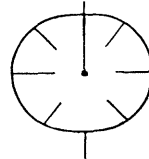
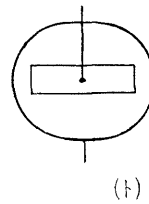
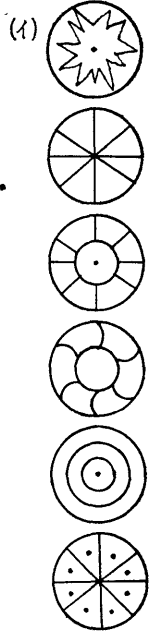
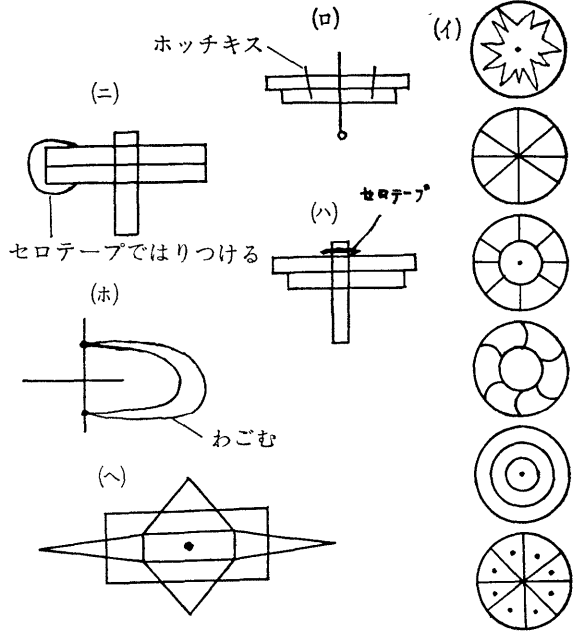
大半が平凡に机の上でまわしていた。四角コマを考えた子は上からまわしながらとばしていたが目立った。

△江戸川区▽

5才 一年保育

◎製作

- ・文京区と同じ丸型がまず大半、模様もやや同じ。
 - ・わごむをかけたコマも同じように現れた。
- 文京区とちがうものに



・丸の上に長四角を重ねる（はりつけずに）丸のまわりに切り込みを入れる。(ト)

- ・三角ゴマ
 - ・菱形ゴマ
- などがみられた。

◎あそび方

- ・芯棒の穴が大きくなった時わごむをかけた。
- ・芯棒のさす位置 まん中じゃなくちゃだめ。
- ・芯棒の長さ
- ・短い方がいいよ。
- ・さきつちよとんがってる方がまわるよ。
- ・大きい方より、細い方がいい。(わりばしよりひごのほうがよい)

・コマの大きさと型

大きい丸だとふらふらするよ、小さいとよくまわる、まんまるだとよくまわる。

わごむをかけるとだめだよ、重くなるからかしら、などの発見をしながら作りなおしたり、はりなおしたりしてあそんだ。

・文京区と同じもの

④上からまわしながらとぼす。このとぼし方がよろこばれ、どの位高くてもまわるか友だちと競争がはじまった。

◎どっちが長くまわるか。

平凡に競争しながらまわし方をかえていた。

△千代田区▽四才児

◎製作

年令的な差がはっきり表れた。

・紙いっぱい一つのコマを作ってしまう子が多かった。型はだ円型が多かった。(丸にしたくてもできない)

・紙の四すみを上に折りまげただけ、棒は割ばしを使った子が多い。
い。

・女兒は全員がとまどい、紙の上にコマの絵をかいて切りぬいてしまったが、男児のをみてはじめてまねて作りだした。

◎あそび方

・大きいコマに短かい棒でまわしたがまわらず、長い棒に変えたがたがたするので切って小さくしていく。だんだん小さくしていくうちにまわすことも発見でき、よくまわるようになった。

・この発見から、こんどは直径2cm位の小さいのを作ってみよう。ひごだけ、くぎをさし込んでまわしていた。

・釘は重くてまわせなかった。

・紙の上でまわすと(机の上が木目でてこぼこ)よくまわって大よ

ろこび。

・女兒の作ったのは芯棒の位置がめっちゃめっちゃでまわらないので、男児のを借りてまわしっこしていた。

・女兒はあまり興味を示さなかったが中にはいっしょうけんめい作りなおしていた子もあった。

△足立区▽一年保育 四月〜八月生まれ、大きい組

◎製作

丸とだ円型は他区と同じようだった。その他に、他の区とちがったものは

・三角を二つ合わせて、芯棒をさしたもの(㉑)

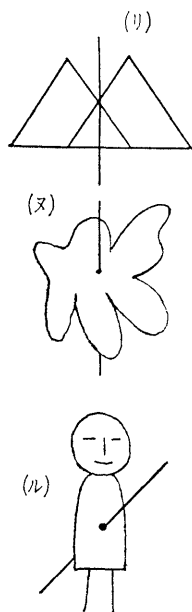
・多角型コマ(切りくず利用のコマ)

・花コマ(ひまわりのような型のコマ)(㉒)

・人形コマ

人間の型を切りぬいておなかに芯棒をとおす。(手はなかった)まわらない。後で教師の示唆で手がつく。手をつけるとまわった。

(これも子どもの発見させたかった)



・立体的コマ

木製のコマのように切り込みを入れて、立体的に組立て、セロテープではりつけて芯棒にわりばしを入れたが、まわらずに倒れてしまった。

◎あそび方

・ひとつのコマができると机の上や床でまわしてみても、大きさと芯棒の太き長さを考えていた。まずマッチ棒をさし、竹ひごをさし、わりばしをさしていった。

・だんだん穴が大きくなりすぎるとセロテープで芯棒をとめてまわしていた。

・さかさにまわす。

「さかだちごまだよ」が流行した。

・立体のコマがまわらないのをくやしがり、次の日の朝空箱に芯棒をさしたコマを考えてまわしてくらべていた。

(イ)どっちが長くまわるか。

(ロ)どっちがいきおいよくまわるか。

(ハ)コマのようがまわるとどっちがきれいかなど、くらべあっていた。

(ニ)さかだちまわし。その後一週間位こまあそびはつづいたと報告があった。

△足立区V 七月〜十月

◎製作

・四角、菱形がまず現れた、が。

・丸くて小さいのがいいぞと数多く作り出した。(いっばいつくれて)

・丸をかさねる。(4cm位の同じ大きさを5枚重ねる)

・色別に柄をつける。

・直径4cmの丸にわりばしをさす。

・わりばしの先をとがらせる。

・芯棒のかわりに小指をつっこんで、まわそうとしていた子がめだつた。

この子は次にわりばしを三本入れてまわすがまわらず、また人差指を入れてまわしていたがまわらないので、わりばしをセロテープでとめていたがまわらないので、やっとあきらめのこりのボール紙で作りなおし「やっとできた」とよろこんでいた。

この子が、いつなげ出してしまいか、私の級はちがうが見にいつきがきでなかった。心の中ががんばれ、がんばれ、自分でまわるこまを作ってくれるようにと応援したのだ。

①まわしっこをする。(どっちがながくまわるか)

②ひとりでもわしてあそぶ。

③ひとりでも何個もつくって次々にまわして色の変化とまわり方を比較して楽しんでいる。

④芯棒の長さをいろいろに変化させてまわす。

次の日の朝から、

④ さかさまわし

⑤ なげまわし

① 手の上まわし をやっていたが他の材料はあまり使わず、変化のある型もあまり現れなかった。

△ 足立区▽ 十二月～三月生れの組（私の学級）

◎ 製作

・ 型・丸・四角・三角は他の学級と同じようなけいこうでまず現れた。

・ 模様 文京区と同じもの他に(カ)のようなものがあり、色のピニールテープをいろいろにはって変化をたのしんでいた。また形は、

・ 多角形 多角形のでっぱりを上折りあげる。(ウ)

・ だるま(カ)

・ さかな(ウ)

・ 四月～八月生まれの組と同じもの。

三角を二つ合わせたもの。(ウ)ぜんじのが現れたのでびっくりした。

・ 長方形を三枚いっしょに重ねて芯棒をとおす。

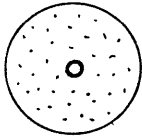
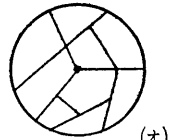
・ 丸を上三枚重ねる。(大・中・小)

・ 切れはし多角形を二枚重ねてまわす。(ツ)

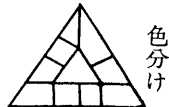
・ 羽つきゴマ

四方に切り込みを入れ、そこに小さい三角をはめてまわす。(ネ)

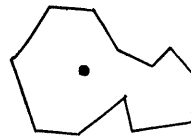
◎ あそび方



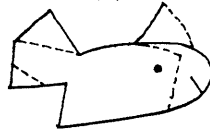
動物の絵をかく



色分け



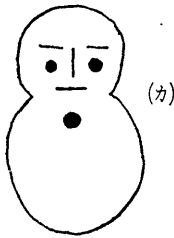
(ウ)



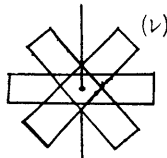
(ヨ)



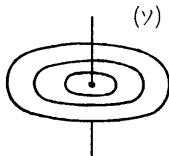
(ク)



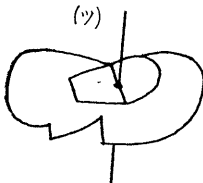
(カ)



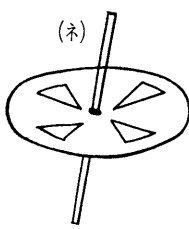
(レ)



(ウ)



(ツ)



(ネ)

・はじめ直径五㎝位の大きさの丸に竹ひごをききまわしていったが、うまくまわらず芯棒だけまわってしまう。穴が大きくなって。

・わりばしをききまわす。

・穴が大きくなって芯棒がぬけるとセロテープで押えていた。

・三角ゴマをまわして丸くみえるのを不思議がり、丸から三角形に作りなおした子が多く目立った。

・紙一枚じゃ軽すぎるんじゃないのと言って上にだんだん小さいのを重ね、わりばしをおしてまわしていた。

この時、芯棒の長さとコマの位置のちがいでまわり方の違いがあることを発見し、いろいろの長さの芯棒を入れかえ、コマをとめる位置をクレヨンでいろいろまわしてためしていた。

・切れはしを二枚重ねてまわしたら思いがけずよくまわったので手でちぎって芯棒をおしてまわしていた子もあった。

イ、ひとりで、まわしてあそぶ。

ロ、まわしっこをする。(どっちがながくまわるか)

ハ、もようや型の変化を楽しむ。(カラーテープをはって)

ニ、芯棒をマッチ、ひご、わりばしを穴の大きくなるにつれて取りかえてまわす。

・芯棒の長さを变化つけてまわす。

・コマの位置をいろいろに(あげたりさげたり)してまわす。

・さかさまわし なげまわし(空中まわし)

・さかをまわしてすべらす(積木で坂をつくって)

以上簡単に同じ教材での作り方とあそびの方法を比較してみたが、これでもはっきりわかるように、

・4才児にはややむりな教材であったようである。(しかし導入やこれまでの経験でもっと発展させられたとも考えられる。)

・1年保育年長は作り方もあそび方もだいたい同じ方向に発展していった。

・子どもたちにコマはまるいものという概念がはっきりとしみ込んでいることがわかり、他の型のコマをめずらしそうに眺めている子がどこの学級でもみられた。

・作り方の発展のさせ方もあまり地域差はみられなかったようだ。丸から出發して三角、四角、多角形、上に重ねたり、二つを合わせたりというぐらいいであった。

・中で特に目立ったものは、

文京区の星ゴマ、江戸川区の切り込みゴマ、足立区の三角ゴマ、人形ゴマ、立体ゴマ、さかさゴマ、羽つきゴマなどくらいだった。

しかし、あそびながらの子どもの発見にはかなりの差がみられた。

◎発見発展の差

・千代田区の4才児はせいに活動したただけで、その後も取り出してあそぶことはなかった。

・江戸川区、文京区はやや同じぐらいの持続時間だったようだ。ただ作った日に各自家庭に持ち帰ってしまったので、次の日からの発

展をみる事ができなかつた。が江戸川区などは自由あそびに数人がコマ作りをしていたと報告があつた。

・足立区は作ったものを各自の戸棚に自由にしまつておいた組と持ち帰した組とがあつたが、それから二週間位コマあそびがつづけられた。

九月十一月生まれの組では、このコマあそびが刺激になり、女兒が木製コマをさかんにまわしてあそぶようになり、男児も一時下火になつた木製コマまわし競争がさかんになつたという報告を受けた。(クリスマスのおくりものに男児がもつた)

・足立区ではこの学級でも家に帰つてからもキャラメル空箱をひろげてコマ作りをしたり、空箱そのままのものに芯棒をさして作ったコマなどあそび、次の日登園の際持つて来て友だちにみせあつたりしていたのが目立つた。

以上は私の所に集つたデータのあらましを比較しながら述べたのであるが、もう少し、私の学級の具体的な活動をみながら、頑張り状態と感情の表れを述べてみよう。

I いっせいに活動した時

◎ どうしていくらやつてもまわらないのかなあ

あまり製作のとくいでないS男

与えられたボール紙を二つ折りにし、その一方に直径10cm位の丸を描き、ていねいにならず巻き模様を描いて竹ひごを芯棒にさし込む。コマの大きさにくらべて細くて短い竹ひごの芯棒なのでいくら

力を入れてまわしても、いきおいつけてまわしても、紙の重みでまわらない。五、六回やりなおしたS男は私の所にやつて来て、「まわらないよ、いくらやつても」と半べそをかいている。私は、また根気のないS男がはじまつた、やっぱりこの教材では頑張り力をねらうのはむりなのだろうかと不安を感じながら、S男のコマを手にしてS男の座席にいき、まわりを見まわすと、他の子どもたちは直径5cm位の丸や三角などをせつせと作り、与えられたボール紙の余白でいろいろの形やまようのものを作り、芯棒もマッチを入れたもの、ひご竹、わりばしと作つてみてまわしながらくらべていたので、私はその子に、

「S男ちゃん、こんな大きな立派なの作つたけどまわらないんですって、どうしてかみて教えてあげてよ」と話してその場をはなれた。

・友だちが作つてあげてしまつては何もならない。

・他の友だちも原因の発見ができず「やっぱりだめだ」となげ出し、しまつたらこまると心配して。

・いつでもとんで行つて助けてあげられる位置で見守つていた。

◎ 大きいコマより小さいコマのがよくまわるよ

大・中・小と三つの丸コマを作つてまわしくらべていたH子がS男のコマに手を伸ばし、「あたしのコマいちばんちびがいつとよくまわるよ、みてごらん」と三つを大きい順にまわしてみせた。じつとみていたS男は無言で芯棒をぬき取り、直径6cm位に小さくしてまわしていた。まわし方は上手にはいえないがいくらかまわつ

ていた。少しして、「先生、大きいより小さい方がいいんだよ、H子ちゃんがそう言ったよ」とコマをまわしてみせてくれた。

・私は子どもの力を信じてよかった、と胸をなでおろした。その時である。

・「どうしてY枝ちゃんのはH子ちゃんより大きくてもよくまわるのかねえ」

と言うのが聞えてきた。Y枝は仕事はのろいがきちようめんできちんとした仕事をする子なのだ。「Y枝ちゃんは力入れてまわすからじゃないの」とか「色のぬり方がきれいだからかな」「Y枝ちゃんの棒、きつくくっついてるからだ」とやや正しい意見をしはじめた。

「ほんとだ、穴が大きくなるとまわらないんだね、そんならセロテープで動かないようにはれば」と言われて、数人セロテープで芯棒をとめたがY枝にはいくらやってもかなわない。みんなY枝のまわりをとりまいて考えこんでしまった。「先生どうしてなの」と助けを求める子も現れたが「どうしてかな、先生も今考えてるの」と言う。「だれが早く考えるか、競争だ」とおっちょこちょいははしやいだりしていた。そのうちいつも他の子とちがう発見をするT男が「Y枝ちゃんの切り方とってもきれいでまんまるだもの売ってるのみたいだからじゃないの」と持ちあげて眺めながら皆に言った。「ほんとだ。きれいにまんまるだ」「よし負けはないぞ、あっそうだ、先生何か型貸してよ」と型を探し出した子を見て、「ずるいぞ、Y枝ちゃんは自分でかいたんだから、みんなも自分でかくんだよ」と言わ

れ、一時は室中真けん丸描きがはじまった。でこぼこをなおしなおしているうちに小さくなりすぎて「チェッ」と舌うちをする子まで現れた。Y枝とS男とH子のコマから、そして同じ型の丸コマから、こんなにも真剣に丸描きができたことは本当に嬉しかった。

少しのだ門のどっばりを机にこすってひっこめようとする珍風景まで現れたのだ。そして「Y枝ちゃんやろう いちにさん」とY枝にちよう戦を申込んでまけた子はくやしがり、作りなおし、勝った子はとびあがってよろこんだり。「ぼく勝ったぞ——もういつこ作るんだ、紙の余っている人くださーい」とうれしきも手伝ってどなり出してしまい「静かにしないとうるさいよ」と言われて、「ごめんね」とすなおにあやまる男児が現れたりした。

・「きみのコマ、丸かと思ったら三角だったんだね、おもしろい」と、ほんとうにびっくりしたようにみつめていたZ雄、

「三角のコマまわすと丸になっちゃうね、ぼくもつくろう」とまねて作り出した。がなかなかうまくまわらない。そこでさっきの友だちのところに来て「まわらないよ、やってみな」と自分のをわたす。友だちがまわしてもまわらない。「どんがったの切ってみな」と言われZ雄は三角のかどを切りおとした、いびつの六角型ができとふたり顔を見合わせて笑っていた。そして皆の机のまわりをあるきながら、あまり大きくないボール紙の切れはしを探してまわしてみていた。そのうちZ雄が仲よしのU夫の所にいき、

このあそびをみて子どもたちはあそびながら、

・ コマの大きさと芯棒の太さとの関係

・ コマの大きさと芯棒の長さとの関係

・ 芯棒とコマの位置との関係をくり返したためしながら体験しているのにはおどろかされた。

「あーあ、あんなによくまわったコマなのにさつきからきゆうにまわらなくなっちゃった」

とささみしそうにコマを手にはC夫は室の中を歩きまわっていた。それを聞いてA男が「どれみせてごらん」と近づいてのぞいた。

「わかった、あんまりやったから穴が大きくなっちゃったんだよ」

C夫は「ちえっ、そんな」と言っただけで自分の席にもどろうとした時、E江が、

「穴が大きすぎる人は上と下とも一枚ずつ小さいのを作って入れるとよくまわるようになるし棒もとれなくなるよ」

と言った。そして自分でやったのが高くあげてみせた。

これを聞いてそばにいたF男が、

「そんなことするよりセロテープで棒とコマをはりつけなければぜったい安全だよ、それから色のビニールテープではとつてもきれいな色になってとくしちゃうよ」

と自分の意見を主張した。これは女児に人気があり、穴が大きくないう子までがカラーテープで芯棒をはりつけまわしていた。色がまぎって思わぬ色になるのをよろこび合っただけだ。「おかしなね、

四角いカラーテープなのにまわすとまぎっちゃうね。ミキサーみたんだよ」など話し合っていた。そこへ、

「あたし穴が大きくなったからマッチ二本いっしょにいれてまわしたの、よくまわったよ」

「それでもまた穴があいたから、こんど三本入れたのほらまわるよ」とK子がやって来た。このK子は言われたことやきめられたことはきちんとまじめにやるが創意のある子ではなかった。マッチを二本に入れてみたという事はK子にとって大した進歩なのだ。私はうれしくなってK子のつくったコマを一つもらったのだ。

◎芯棒の穴の修繕はこのように

・ 細いからだんだん太いのを入れかえる。

・ セロテープではりつける。

・ 新しい紙をおぎなう。

・ 二本、三本とふやしていれてみるなどを発見していったのである。そして「穴がすぐ大きくなるのわかったよ。釘ではじめにあける時、おくまで入れて、大きいあなつくるからだ。さきつちよで小さい穴にしとけばいいんだね」などと話し合っているグループもあった。

そして「よくまわるようになったと思うと、すこしたつと穴が大きくなるから、残念で、残念でたまらないよ」とげんこつでコマをたたいてくやしがり、「穴が大きくなならないように鉄でも先に入れてよいか、それだめだね」と子どもらしい考えもとび出したりした。

「Y男ちゃんのくずのコマだったらビュンとうなってるの」

自分の思うようにできあがらず、三つ四つ作ったコマを人にやりたり、捨てたりしていたY男は、しばらくクレヨンとハサミを持って、室の中をあるきまわっていたが、皆がおもしろそうにコマをまわしているのを見て、机の下にもぐり込み、落ちているボール紙の切れはしをひろいあげ、でっばった所を上を折り、まん中にマッチ棒をつつこんで力まかせにまわした。すると思いがけずビューンとうなつてよくまわる。Y男は手を叩いてとびあがり「ワイいぼくのうなりゴマだぞ」と大声でどなったりしていた。これを見て私はこんなことをほんとに拾いものをしたと言うのだな、と嬉しいやらおかしきやらでY男の顔をしばらく眺めていた。Y男の発見があつてしばらくすると、

「ぼくのはマホーゴマ」

と言ってS介が一つのコマを持って来てくれた。巾三cm、長さ六cmの長方形のコマである。「いちにのさん」と言つてまわしたコマは、風を切つてコスモスのように振がった。これは長方形のボール紙を三枚重ねて芯棒を通してあつたものだった。私は思わず「ほんとにマホーね。きれいな花ゴマになったじゃない」と言うのとS介はこれ以上笑えないと言うほどの笑顔をみせてくれた。すると、

「あたしの花ゴマきれいだよ」

とひまわりのような形のコマをK枝が持つて来た。

◎これらのうなりゴマ、マホーゴマ、花ゴマなどのあそびは、まわりの雰囲気があるが、その雰囲気があそびを途中で

やめさせず、小さい発見が次々と創意を表せるあそびに発展していったのだと思う。

◎活動のより上りと子どもたちの活動に対する積極性がこれほどひとり前進させてくれることを目のあたりみたことはなかった。

II 自由あそびの時

「まわりますように、これはいなかゴマです水ゴマです」

とひとりごとを言いながらT夫は直径一〇cm位の羽のついたコマを持って水道にいった。このあそびがやりたくていつもはおちついて食べるおべんとうも今日は残してしまった。コマを横にして水道をひねった。はねに水があたつてよくまわる。「先生ぼくのおばあちゃんちにこうゆうのあるんだよ。たんぼのところに」と嬉しそうに私をみあげた。そばにいた友だちがうらやましそうに眺めている。そして「T夫ちゃんどうやって作ったか、みせて」と手を出す子や、「もう少し水たくさんだしてみなよ」など注文する子などがでて大さわぎになった。しかし水車はだんだんぬれて、羽が一枚一枚とれて来て、紙がぐにゃとまがつて、こわれてしまった。T夫は「紙だからしょうがないや」とあきらめ、「もういっかいつくってこよう」と室に入った。そこで私はモビールを作つた時の残りのセルロイドの下敷を思い出し、T夫に渡した。そして「磁石あそびの時の針金を使つてごらんさい」と言つてその場をはなれた。T夫は「よし、これならいいぞ」と固いセルロイドを一生けんめい切つていった。五分後には水道でキャッキョッキョといながら上着のすそをびし

よびしょにして水車をまわしているのである。T夫のをまねて三人が水車を作って、いっしょにまわした。

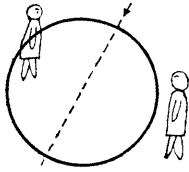
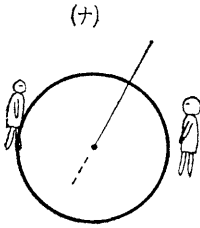
大分あそびつかれたので、翌日はもうあそばないだろうと思っていると、登園するなり道具戸棚からきのうのコマを持ち出してあそび出した。「先生ちがうコマ作りたいから紙ちょうだい」と言ってくる子が目立ったので、机の上にボール紙やその他の材料をまだしておいた。

「先生スモウコマができた。でもまわっている時は何だかよくみえないでしょう」

とA男はコマの両脇に相撲を立たせたコマをまわしてみせてくれた。そして「先生これまわす時はいっしょにくっついて、その次に半分に分れて、どっちがいつまでもまわるか競争できるのつくりたいな」と言うのである。(矢印からまわりながら分かれればと夢をふくらませている)

「みてみて、ほとくのピラまきコマだよ」

もう大部分の子が登園して来たころH男がどなった 皆いっせい



にH男のまわりに集まっただけ。直径五cm位の丸コマにマッチの軸を芯棒にさしてまわっているコマの上に、ちり紙をこまかくちぎってふりかけたり、まわす前にのせてまわしたりしている。まわすところがみが四方に散るのである。みていた友だちも楽しそうに笑ってみていたが、H子が「おり紙やった方がきれいだよ」と三枚の折紙を持ってきて手でちぎってのせてまわすと色がまざってきれいにみえた。皆「ワーきれいだよ」と、これもみんなに流行したのである。

「きかいつくる工場です」

S夫が直径一〇cm位の大きな丸コマを積木の間によこにしてすえつけ、足をふむまねをしながら、「ほとのお父ちゃん工場でこうゆうの使っておしごとしてるんだよ」と積木の好きな友だちと話していたが、次の瞬間、コマに息を吹きかけてまわしながら小さい積木の製品を下から転がすようにして工場あそびをしばらくつづけていた。

「ほとのコマは穴ほりコマなんだよ」

砂場のへりで三角コマをまわしていたO司が「土の上でまわすとコマ穴ほるよ、ほとのコマ穴ほりコマなんだよ」と言うので、みると、コマ芯棒が砂にめり込んで一点でよくまわっている。私がじっとみていると「先生、ひご竹のコマがいちばんよくほるのは、はしはだめだよ」と言って笑っていた。私のそばでみていたS枝が「O司ちゃんきのうみたいに鉛筆けずりでけずってみな、まわるよ」と教えていた。私は、なかなかいいことを言うぞと思って聞いていると、鉛筆けずりでけずって来たO司はさっそく砂を平になで、その

上でまわし、きつきよりよくまわるのでブランコにのっているS枝のところにかけていき「S枝ちゃんまわったよ」と報告した。これを見とどけて、私はもう一回室に入って見た。すると、

「ハターになーれ」

と言いながら、三人がコマのまわっているまわりをぐるぐるぐるまわっているのである。私が入って来たのを見て、「先生、チビクロサンボだよ、トラなの、このコマねー」と言って「ハターになれ」とまわりだした。私は子どもたちの夢の世界のきれいなのにうっとりしながら眺めていた。

すると私の足もとで、

「コマがじゃれつたがつてるよ」

と聞こえたので我にかえって足もとをみると○子がコマをみつめて手を叩いている。コマは床の板の間に芯棒が入ってしまつてゆれながらまわっていた。私が見たので○子は「先生困つてら、でなくてね、じれつたがつてるの、じれてんだね」と言うのである。私は心の中で○子ちゃんに似てるねと言つて笑いかけておいた。

「ここはダンス場です」

とY男がみんなよびかけている。みると、床に白ぼくで絵をかき、その上でコマをまわしている。「ダンスしたい人はここでまわしてください。ホークダンスです。コマのホークダンスはこちら」

と呼び、よびごえにつれてみんなコマを持ってまわしにいった。たちまち二〇個位がまわりだした。

するとY男が「一かいだめになった人はあかの中で踊るの、二かいだめになった人は青の中で踊らせな、踊るのはまわすことだよ」と新案を出した。このあそびは一〇分位続き入れかわり立ちかわり、まわし合っていた。(こんなことをよろこぶのだなと思つて他に目をうつした)これを少しはなれたところでみていたK夫が、

「コマがみんなのみて笑つて、僕の手くすぐつたよ先生」

と言つて私のそばにそつとやつて来て、手の平でまわしてみせてくれた。

次の朝私が室に入っていくと、空箱を入れておくダンボールがひっくり返されている。みると、

Ⅲ 空箱利用のコマを作っている。

A男やS男、A子にY夫たちが釘やビニールテープ、ホッチキスなどを使って立体的コマを作つてはまわしていたのであった。

1 マーブルの空箱を芯棒にして先をつぶしたコマ・芯棒が太いので両手でいっしょうけんめいまわしてみる。力の入れ方ですぐいきおいよくまわるのでよろこぶ。

2 マーブルのふたにマッチ棒の芯を入れたコマをまわしたりしていた。(これは芯棒とふたのおもさがちょうどよく、いつまでも長い時間まわるコマができた)

3 マッチの外箱にマッチの芯棒のコマ

・マッチの葉のついた方を下にしてまわすとまわることを発見。

4 タバコの空箱にわりばしの芯棒を入れたコマ

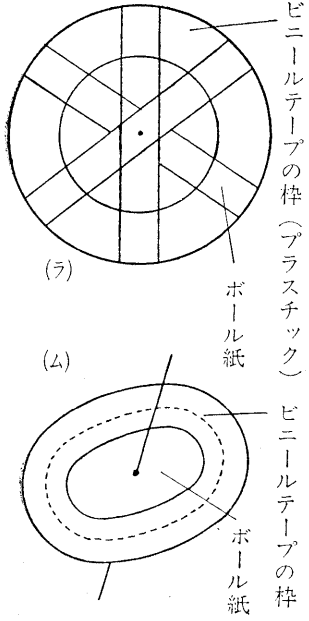
・ビニールテープでいろいろもようをつけたコマ

・人間のように首と手と足を画用紙で作ってはりつけたコマ。(芯棒をつっこみながら「おへそだね」といつていた)このコマは中心がとれにくく、何回も何回もやりなおしていた。一番よくまわったのが手と足にわりばしを折ってつけたコマだった。これを見て子どもたちは「こんな重くても中心がきまつてるとまわるね」と私がねがってもない発見をしてくれたのである。

5 カラーのビニールテープのまいてあった枠にボール紙をはりつけたコマ。ボール紙をさしわたしてビニールでとめ、竹ひご芯棒をとおした。(ウ)

芯棒とコマの位置のバランスが合つてくると力づよくよくまわった。

これを見てもうひとりの子がビニールテープの枠の上に丸いボール紙をかぶせて竹ひごを通してまわしていた。(ウ)どちらも同じ



ようにまわったが、後者のほうが早く芯棒の穴が大きくなることを子どもたちは発見していた。

その次の日の朝、T男がかなづち

でどンドンやっているのでいってみると、

6 ビールの王冠に釘をうちつけて、芯棒にし、さかんにコマを作っていた。

私が「いいこと考えたわね」と言うとう「うん」といいながら「先

生、釘が太いとよくまわらないし、長くしてもだめ、この長さがちょうどいいよ」と言つて中位ののをまわしてくれた。ほんとうによくまわる。私もまわしてみた。指先にかんずる金属せいの重量感がこころよかった。これをみながら私がいろいろまわしている時、電話

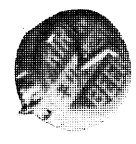
がかかったので、その場をはなれて電話にでた。するとT男が二、三名の子といっしょに「大発見だよ——先生大発見、大発見、大発見」と職員室になだれこんで来た。話している私の目の前でひとつ

のコマをまわしてみせた。

「ねえ、すぐくまわるでしょう。いままでいっとうまわるね、ぼくが発見したんだよ、ちょっとやってみたの」とT男

が息もつかずによく顔中まっかかして話してくれているので、私は電話の相手にわけを話し、しばらく待ってもらった。そして手にとつてそれをみるとそれは、

7 ビールの王冠の中のコルクに小さい釘をさしたコマなのだ。なるほど音もなくよくまわる。それをみて私が「ほんとによく発見



したね」というとT男は「先生まだあるんだよ。こっちは釘をきかさしたほうだよ、やっぱりとんがったほうのがよくまわるでしょ」と言う。T男は発見、発見と職員室に入って来るまでに何個もいろいろとやってみてたのだ。そして最後に、釘とそしてその位置とがピッタリ合ったコマができてよくまわったので、私も電話のつづきを忘れていっしょによるこんでしまった。

この発見は男の子全員に流行し、女の子もかなづちでとんとんと釘を打ちつけて作っていた。この日、私は計画を変更してビールの王冠ゴマのちかぬき競争をやってみた。一〇〇個近くあった王冠と磁石あそびの時の残りの釘はすっかりからなくなってしまった。子どもたちはよろこんで、おべんとうのあとも、そここでちかぬき競争をしたのしんだのである。

以上が私の学級でのコマあそびである。この経験から、私は、この位の抵抗のある教材でも子どもたちは頑張つてくり返しくり返し、あそびを発見させていくことができる力を全員がもっていることを知ることができた。さらに、この位の抵抗は、しゃぼん玉や磁石のように無抵抗のくり返しより、手ごたえがあり歯をくいしばって前進しようとする力づよさを表してくれることがわかったのである。そして与える前にあんなに心配していた私がおかしくなり、恥かしくなってしまった。子どもたちを少しは知っていたつもりなのに私どもは何にもわかっていなかったことが証明されてしまった。子どもたちの持っている力をもっと科学的にたしかめ信じなくては

申しわけないとしみじみ感じ、教師顔をしていた自分が恥かしくならなかった。この活動をふりかえってみると、

◎このコマあそびがここまで発展したのはシャボン玉や磁石あそびの経験があったので組全体の子どもたちが活動に対して、これだけ楽しくあそぼう、失敗したらやりなおせばなんとかなる、という、失敗のチャンスをうまく使っている」とする雰囲気が出ていたので、ひとりの落こ者も出さずにすんだのであろう。

◎そして、この活動の中でみのがしてならないことは子どもたちの確かめのくりかえしの方法と発見のしかたはおとが考える理くつでなく、体全体でぶつかっていく、くり返しであり、たしかめなのである。まず全身の神経を指先に集中させて、いろいろのコマをいろいろのやり方でまわす、その時の真剣さは指先だけでない。体全体で小さなコマにぶつかっているのである。そして、ちょっとしたちがいを何回かのくり返しの中から身につけ、それをもとに、いろいろの空想と創意を小さなコマに集めているのである。

この力強さ、小さな幼児の中にあふれる無限の力におどろく。そして、子どもたちのくり返しとがんばりの力は、全身の感覚をとおして、その子なりに身につけていくのであるということも知らされたのである。

ひとりひとりの子どもたちをしっかりみつめ、受けとめ、子どもといっしょに失敗を積極的に変化させていかれるような失敗のチャンスと教材を、科学的に考えてたしかめなくてはと思うのである。